

## 【資料】不登校前後の各施策と指標との関連

指標  
結果

不登校児童生徒の出現率：小学部32.7人/中学部81.2人（1,000人当たり） ※令和6年1月末現在

先行  
指標支援者・社会資源等との  
関わりが構築されている  
不登校（傾向）児童生徒の割合

100%（39人/39人）

（参考）12月末時点での不登校児童生徒の欠席日数  
 【令和5年度：31名】  
 平均:71.8日、中央値:71日、SD:28.9日  
 【令和4年度：24名】  
 平均:65.1日、中央値:61日、SD:28.3日

学びの場に接続されている  
不登校（傾向）児童生徒の割合97.4%（38人/39人）  
※令和6年1月末現在学園外の学びの場を利用し、  
出席となった児童生徒数

計7人

現在、  
対象児童生徒を把握中であり、  
今後、体制を構築し対応予定

取組

不登校（傾向）児童生徒の  
孤立を防ぐ不登校（傾向）児童生徒を孤立  
させないよう、学園内を含めた  
支援者・社会資源等との関わり  
を構築する。多様な学びの場の利用を  
促進し、出席扱いとする不登校（傾向）児童生徒を早期  
に別室やけやき教室に接続し、  
教室以外でも学べる状況、教室  
外の居場所がある状況をつくる。  
さらに、学園外の学びの場の利  
用は出席扱いとする。不登校ハイリスク児童生徒を  
継続的に状況把握するハイリスク要因を有する児童生  
徒を把握し、継続的に状況把握  
できる体制を構築する。